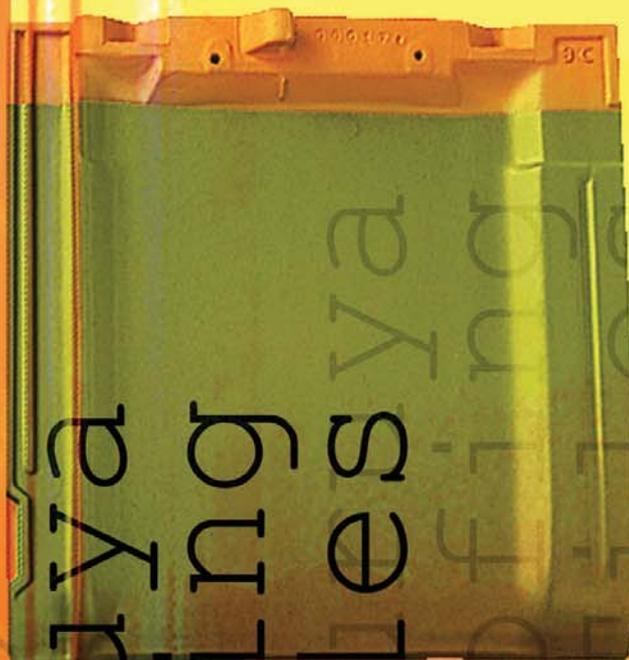


# 第 39 期 中間事業報告書

平成17年4月1日から平成17年9月30日まで



株式会社 鶴 弥

## 経営に関するQ&A



代表取締役社長 鷗見 栄

### <経営理念>

強く美しく、取り扱いはやすく、  
値打ちで、より安全な、  
粘土瓦を提供する。

◆国内経済は、緩やかな景気回復傾向の兆候を見せているとはいえ、住宅産業を始め、粘土瓦業界においても依然として、予断を許さない状況にあると思われませんが、業界リーダーとして何をしなければならないと感じていますか。

確かに、企業収益を圧迫する諸々の要因に対し、業界全体が対応を迫られていると感じております。

当社としましては、一つの経営理念を貫き、引き続き「防災意識」や「環境意識」の高まりとともに、環境に優しく、安全な粘土瓦を提供することに尽力し、お客様が納得できる付加価値をもって、お値打ちにお届けできるように邁進致します。そして、当社が業界情勢の変化に対応し、お客様の要望を満たす姿勢を崩さず、常に前進することにより、業界全体の活気が高まることを望んでおります。

◆中期経営計画の最終年度も終盤を迎え、更なる業容拡大を図られるとともに、国外市場への進出や他の事業に進出してはどうかという意見もありますが、どのようにお考えですか。

貴重なご意見も多くいただいておりますが、まずは粘土瓦のお膝元であるこの三州産地において、確固たる経営基盤を構築することが重要課題であると考えており、中期経営計画に示すように、業界シェア20%の目標達成に向けて全力をあげて取り組んでおります。また、将来的な国内需要の縮小も予想され、確かに国外へ目を向けていくことは必要になってくるであろうと考えております。

◆前期末頃から今期にかけて、株式の立会外分売、投資単位の引下げなど、投資市場に対し積極的な働きかけをしているようですね。

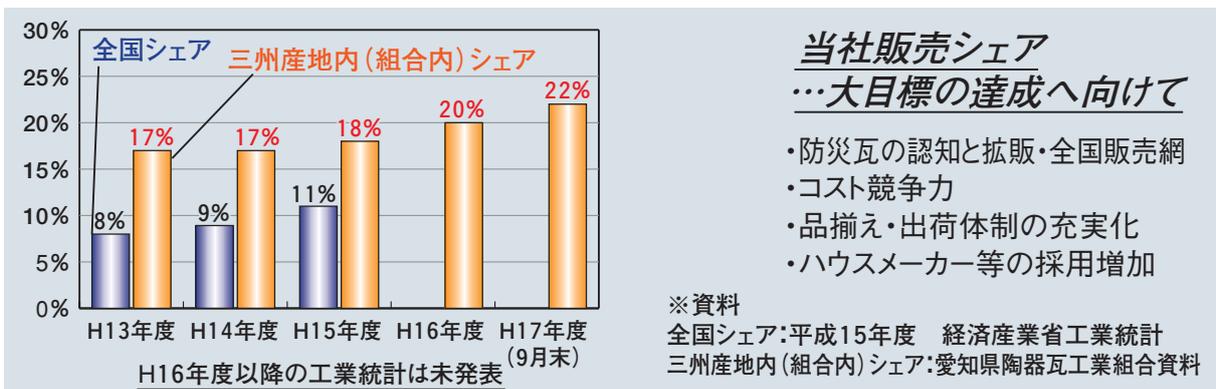
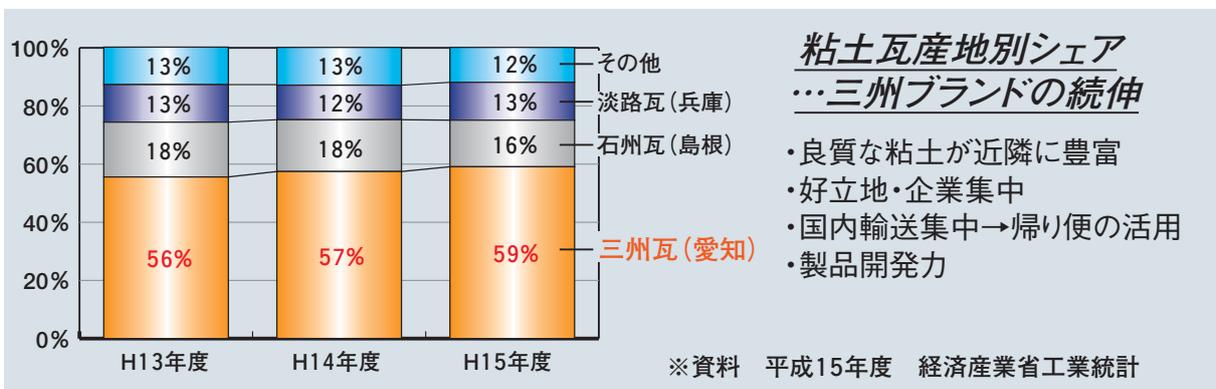
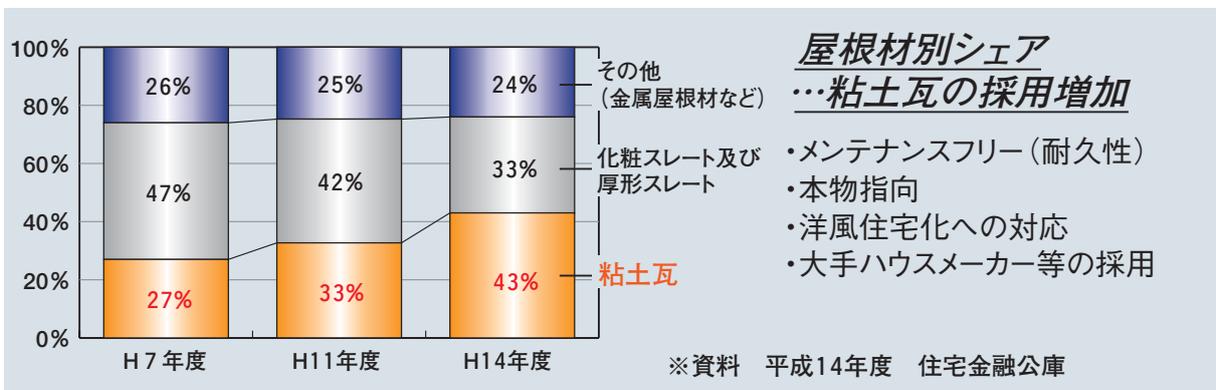
近年、多様な投資家層、特に個人投資家の市場参加が活発化している状況であると伺っております。当社においても、好調な業績背景のもと、投資市場において、徐々に認知いただいている状況であり、今後もより多くの投資家の方に「業界No.1ブランド」という位置づけを広めていく好機が到来していると考えております。この時期を逃さず、より幅広い層の投資家が株主になりやすい環境をつくり、株式の流通促進を図ることを目的として政策を進めております。

◆利益配分に関する基本方針をお聞かせください。

弊社は粘土瓦業界にあって、常に最新の生産技術と卓越した製品企画力を保持し、生産能力を維持・向上させながら、利益及び業容の拡大を継続的に追求していくために、時機を得た新工場の建設や、設備の更新を慎重かつ大胆に実施していく必要性を認識しております。将来に向けた安定的な収益基盤づくりに必要な内部留保に配慮しつつ、株主の皆様に対しては絶えず安定かつ高水準の利益配分を継続してまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご理解とご支援を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

―業界の背景と当社販売シェアの動向―



# 経営成績

## 1. 当中間期の概況

当中間期におけるわが国経済は、企業収益の改善により、景気の踊り場を脱却し、景気の基調は穏やかに景気回復への局面を辿ってまいりました。

当業界におきましては、粘土瓦需要動向を大きく左右する新設住宅着工戸数（特に持家）が前年実績割れ傾向にあり、同業他社もほぼ横這いの動きを続ける中、前年まで落込んでいたJ形瓦の拡販と、引き続き好調に推移したF形瓦の増販により、売上高は63億97百万円（前年同期比13.5%増）となり、中間期としての販売枚数・売上高とも過去最高の成績をあげることができました。

競争激化による販売価格の低下、原油価格高騰によるコストアップ要因を受注増加による生産稼働率向上等により売上総利益率は前期対比同水準に留め、売上高の増加により売上総利益は15億53百万円（前年同期比13.2%増）となりました。

販売費及び一般管理費は、取引先民事再生申立てにより、売上債権額1億60百万円を全額引当処理した事が主要因で10億74百万円（前年同期比20.6%増）となりました。

営業外収益は、組合の事業分量配当7百万円の増加が主要因で23百万円（前年同期比46.4%増）となりました。

営業外費用は、支払利息・手形売却損の減少により53百万円（前年同期比15.9%減）となりました。

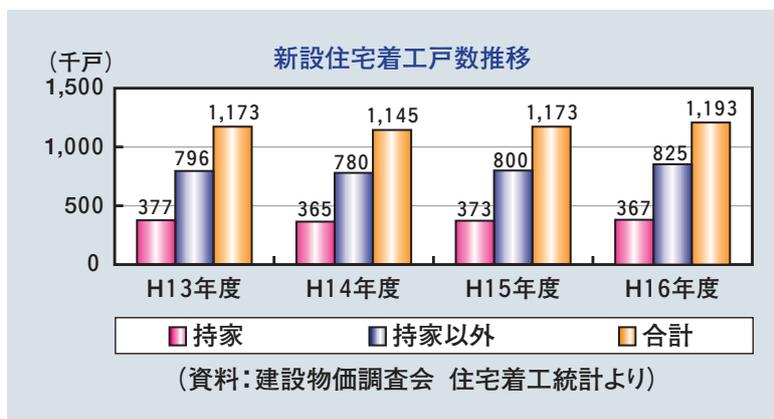
経常利益においては、販売枚数増加による売上高の増加により製造コスト増、販売費及び一般管理費の増加を吸収し、併せて営業外収益の増加、営業外費用の減少により4億48百万円（前年同期比3.5%増）となりました。

特別利益は、貸倒引当金戻入7百万円が増加の主要因です。

特別損失は、減損会計適用に伴う減損損失2億3百万円が増加の主要因です。

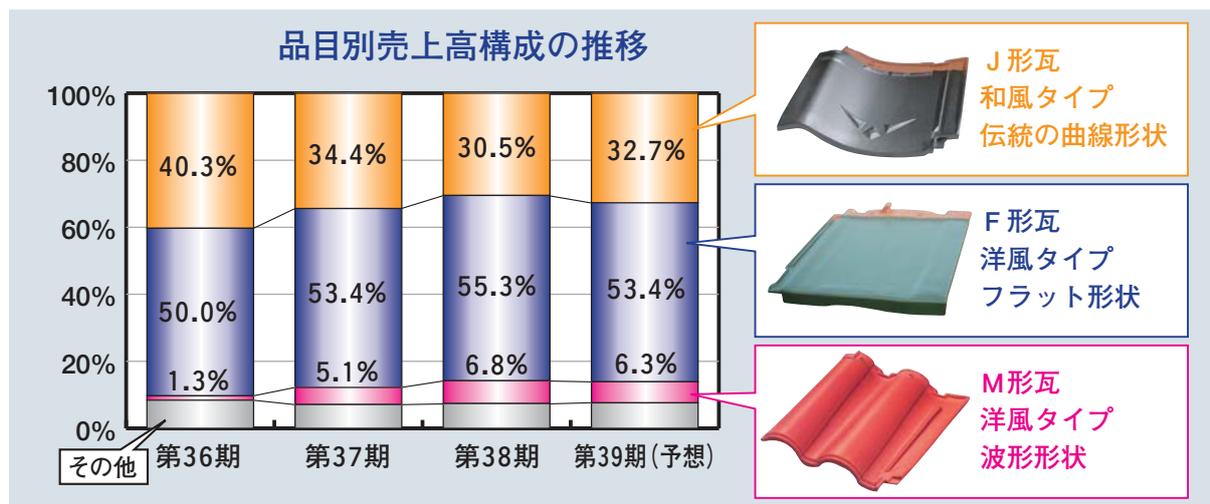
この結果、当中間期の売上高は63億97百万円（前年同期比13.5%増）、営業利益4億79百万円（前年同期比0.5%減）、経常利益4億48百万円（前年同期比3.5%増）、中間純利益1億1百万円（前年同期比46.2%減）の増収減益となりました。

なお中間配当金につきましては、前中間期と同額の7円50銭とさせていただきます。



◇品目別売上高実績◇

品目別	売上高(百万円)	構成比(%)	前年同期比(%)
J形瓦	2,092	32.7	128.2
F形瓦	3,494	54.6	110.2
M形瓦	376	5.9	92.3
その他	435	6.8	102.0
合計	6,397	100.0	113.5



## 2. 通期の見通し

当中間期以降の国内経済は、原油高のリスク要因を乗り越え、持続性のある景気回復となるか懸念されるものの、概ね堅調に景気回復に向けて推移すると予想されます。

当業界におきましては、粘土瓦の需要動向を大きく左右する持家住宅の新設着工が、前年実績割れ傾向にあり、下期においても需要増は期待しにくい状況下であり、原油高のリスク要因と併せて企業の存亡をかけた熾烈な競争が予想されます。

こうした情勢のもとで、当社は、上期に引き続き、販売基盤の拡大を図るために、成長を続ける戦略製品F形防災瓦「スーパートライ110」の増販とともに既存持家住宅のリフォームをターゲットとした緩勾配屋根にも使用できる防水性に優れたJ形防災瓦「スーパーエース」によって前年まで続いたJ形瓦の減少傾向に歯止めをかけ、併せてM形瓦「スーパートライ110サンレイ」についても、製品バリエーションを追加し更なる拡販に努めます。そして、当社は、お客様に満足していただけるように、常に、製品の品揃え、出荷体制の迅速化、経費節減、生産コストの低減、販売管理等を含む内部統制の見直し並びに周知徹底に努め、いかなる経営環境の変化にも対応できる経営体質を維持・向上できるよう、全社を挙げて努力してまいります。

# 貸借対照表(平成17年9月30日現在)

(単位：千円)

科 目	期 別	前中間期 (平成16年9月30日現在)	当中間期 (平成17年9月30日現在)	増 減	前 期 (平成17年3月31日現在)
<b>(資産の部)</b>					
<b>流動資産</b>					
現金及び預金		598,184	745,191	147,006	660,121
受取手形		672,313	1,684,188	1,011,874	1,331,906
売掛金		1,353,994	1,399,685	45,690	1,166,682
たな卸資産		1,499,773	958,000	△ 541,773	1,375,560
繰延税金資産		85,948	107,482	21,534	97,849
その他		59,561	51,330	△ 8,230	38,497
貸倒引当金		△ 17,794	△ 9,337	8,457	△ 11,564
流動資産合計		<b>4,251,982</b>	<b>4,936,541</b>	<b>684,559</b>	<b>4,659,053</b>
<b>固定資産</b>					
<b>有形固定資産</b>					
建物		1,592,912	1,511,673	△ 81,238	1,554,217
機械及び装置		1,452,597	1,484,945	32,347	1,516,352
土地		9,367,194	9,163,376	△ 203,818	9,367,194
建設仮勘定		2,326	171,197	168,871	30,326
その他		409,135	427,063	17,928	383,624
有形固定資産合計		<b>12,824,166</b>	<b>12,758,256</b>	△ <b>65,909</b>	<b>12,851,715</b>
無形固定資産		<b>49,227</b>	<b>39,525</b>	△ <b>9,702</b>	<b>44,827</b>
<b>投資その他の資産</b>					
繰延税金資産		236,402	325,831	89,428	266,792
その他		744,638	870,518	125,880	730,630
貸倒引当金		△ 128,695	△ 267,329	△ 138,633	△ 122,299
投資その他の資産合計		<b>852,345</b>	<b>929,020</b>	<b>76,674</b>	<b>875,123</b>
固定資産合計		<b>13,725,739</b>	<b>13,726,802</b>	<b>1,062</b>	<b>13,771,666</b>
資産合計		<b>17,977,721</b>	<b>18,663,344</b>	<b>685,622</b>	<b>18,430,719</b>

(単位：千円)

科 目	期 別	前中間期 (平成16年9月30日現在)	当中間期 (平成17年9月30日現在)	増 減	前 期 (平成17年3月31日現在)
<b>(負債の部)</b>					
<b>流動負債</b>					
支払手形		1,324,788	1,599,295	274,507	1,458,497
買掛金		404,585	478,476	73,890	425,973
短期借入金		5,400,000	5,350,000	△ 50,000	5,400,000
1年以内返済予定の長期借入金		852,000	492,000	△ 360,000	692,000
未払費用		364,335	426,657	62,322	329,013
未払法人税等		190,877	239,171	48,293	219,794
賞与引当金		146,016	163,746	17,730	166,937
設備関係支払手形		26,174	266,120	239,946	132,782
その他		79,828	176,835	97,007	190,201
流動負債合計		<b>8,788,605</b>	<b>9,192,303</b>	<b>403,698</b>	<b>9,015,199</b>
<b>固定負債</b>					
長期借入金		1,539,000	1,427,000	△ 112,000	1,473,000
退職給付引当金		41,699	64,808	23,108	57,954
役員退職慰労引当金		512,607	637,038	124,431	613,898
その他		1,000	1,000	—	1,000
固定負債合計		<b>2,094,306</b>	<b>2,129,846</b>	<b>35,539</b>	<b>2,145,852</b>
負債合計		<b>10,882,912</b>	<b>11,322,149</b>	<b>439,237</b>	<b>11,161,051</b>
<b>(資本の部)</b>					
<b>資本金</b>					
資本金		<b>1,498,850</b>	<b>1,498,850</b>	—	<b>1,498,850</b>
<b>資本剰余金</b>					
資本準備金		2,321,850	2,321,850	—	2,321,850
その他資本剰余金		—	57	57	—
資本剰余金合計		<b>2,321,850</b>	<b>2,321,907</b>	<b>57</b>	<b>2,321,850</b>
<b>利益剰余金</b>					
利益準備金		110,163	110,163	—	110,163
任意積立金		2,127,393	2,116,343	△ 11,050	2,127,393
中間(当期)未処分利益		1,005,027	1,208,084	203,056	1,164,017
利益剰余金合計		<b>3,242,585</b>	<b>3,434,591</b>	<b>192,006</b>	<b>3,401,574</b>
その他有価証券評価差額金		<b>35,236</b>	<b>91,329</b>	<b>56,092</b>	<b>52,159</b>
自己株式		△ 3,712	△ 5,483	△ 1,771	△ 4,764
資本合計		<b>7,094,809</b>	<b>7,341,194</b>	<b>246,384</b>	<b>7,269,668</b>
負債・資本合計		<b>17,977,721</b>	<b>18,663,344</b>	<b>685,622</b>	<b>18,430,719</b>

## 損益計算書(平成17年4月1日から平成17年9月30日まで)

(単位：千円)

科 目	期 別		増 減		前 期 (自平成16年4月1日 至平成17年3月31日)
	前中間期 (自平成16年4月1日 至平成16年9月30日)	当中間期 (自平成17年4月1日 至平成17年9月30日)			
売 上 高	5,635,847	6,397,509		761,662	11,269,061
売 上 原 価	4,263,501	4,843,875		580,374	8,623,530
売 上 総 利 益	1,372,345	1,553,633		181,288	2,645,530
販売費及び一般管理費	890,459	1,074,327		183,868	1,640,746
営 業 利 益	481,886	479,306	△	2,579	1,004,784
営 業 外 収 益	16,038	23,479		7,440	27,683
営 業 外 費 用	64,065	53,899	△	10,165	114,712
経 常 利 益	433,859	448,886		15,026	917,755
特 別 利 益	344	7,158		6,813	344
特 別 損 失	102,157	221,584		119,426	222,617
税引前中間(当期)純利益	332,047	234,460	△	97,586	695,482
法人税、住民税及び事業税	183,702	228,145		44,442	394,949
法人税等調整額	△ 40,451	△ 95,201	△	54,750	△ 94,203
中間(当期)純利益	188,795	101,516	△	87,278	394,736
前期繰越利益	816,232	1,106,568		290,335	816,232
中間配当額	—	—			46,951
中間(当期)未処分利益	1,005,027	1,208,084		203,056	1,164,017

## 財務データ

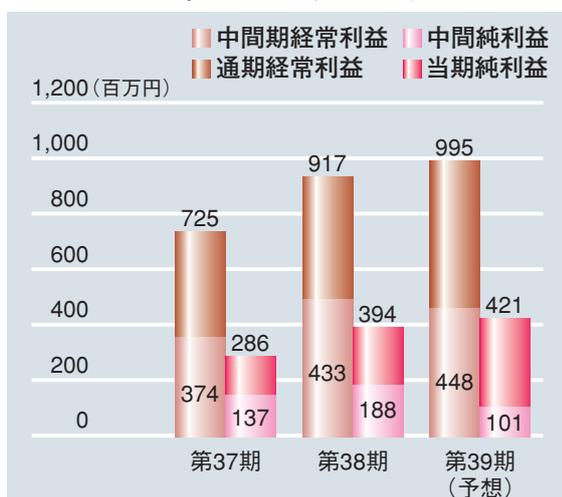
### 売上高



### 1株当たり中間(当期)純利益



### 経常利益/中間(当期)純利益



### 総資産/純資産



### 株主資本利益率 (ROE)



### 1株当たり配当金/配当性向



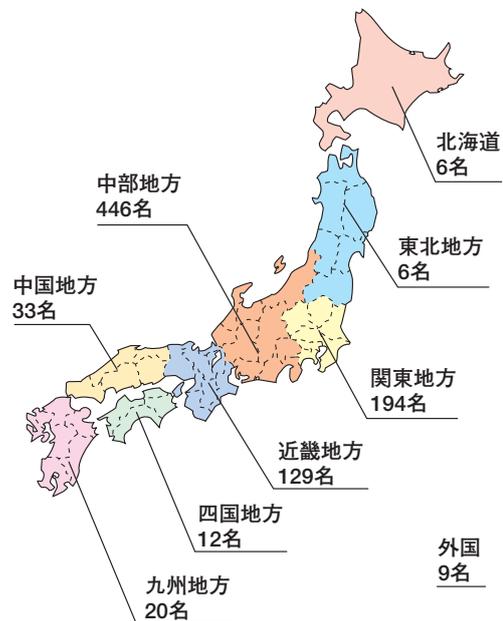
注) 1株当たり当期純利益・株主資本利益率・1株当たり配当性向につきましては、平成17年11月25日払込による公募増資後の株式数等に基づき算出しております。

# 株式の状況 (平成17年9月30日現在)

## ○株式数及び株主数

会社が発行する株式の総数…… 25,000,000 株  
 発行済株式総数…………… 6,267,800 株  
 当中間期末株主数…………… 855 名  
 自己株式の保有数…………… 9,899 株

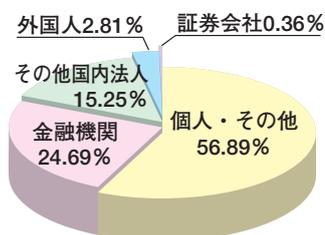
## ○地域別株主分布図



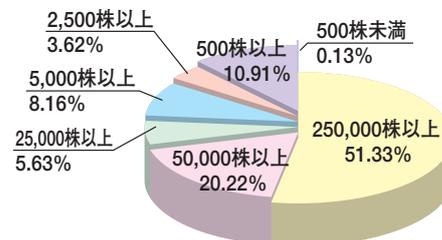
## ○大株主（上位10名）

株主名	当社への出資状況	
	持株数(株)	議決権比率(%)
鶴見 哲	1,551,200	24.96
有限会社トライ	737,700	11.87
株式会社UFJ銀行	310,400	4.98
株式会社みずほ銀行	310,000	4.98
商工組合中央金庫	308,000	4.95
鶴弥従業員特株会	142,900	2.29
鶴見 栄	140,000	2.25
岡崎信用金庫	132,000	2.12
鶴見 日出雄	132,000	2.12
細井 芳美	132,000	2.12

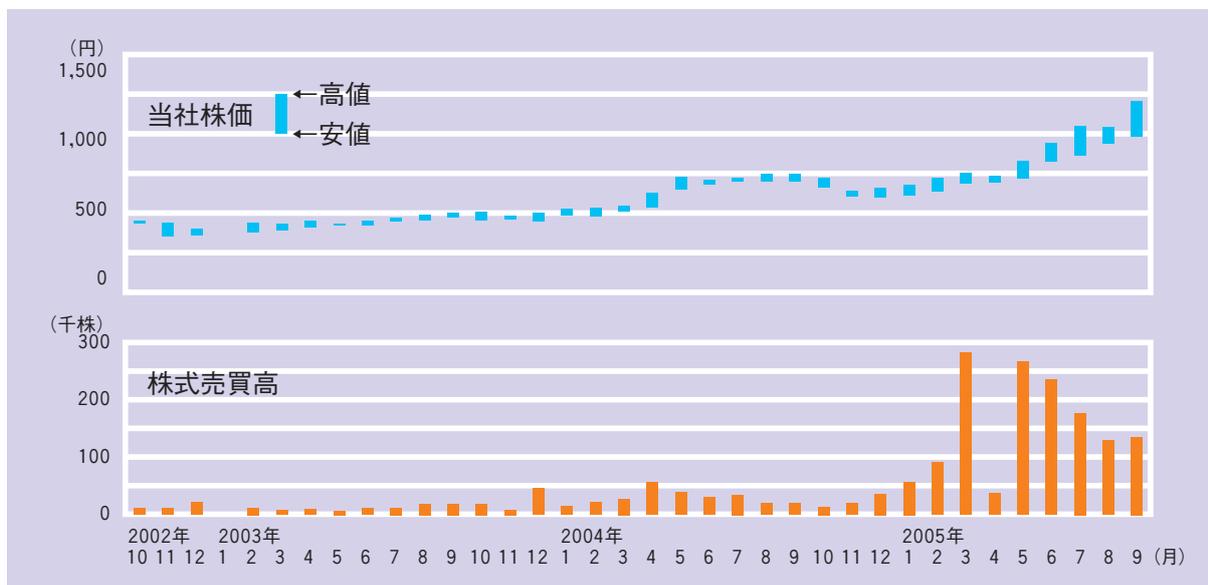
## ○所有者別分布状況



## ○所有株数別分布状況



## ○株価の推移



## 会社の概要(平成17年9月30日現在)

商号	株式会社 鶴弥
本社	TSURUYA CO., LTD. 愛知県半田市州の崎町2番地12 TEL (0569)29-7311(代表)
設立	昭和43年2月
事業内容	陶器瓦の製造及び販売 屋根工事の請負及び施工 屋根資材の販売 上記に付帯関連する一切の事業
資本金	1,498,850,000円
発行済株式総数	6,267,800株
従業員数	446名
事業所	本社及び本社工場 〒475-8528 愛知県半田市州の崎町2番地12 衣浦工場 〒475-0032 愛知県半田市潮干町1番地1 西尾工場 〒444-0325 愛知県西尾市楠村町南浜屋敷16番地1 阿久比工場 〒470-2215 愛知県知多郡阿久比町大字矢高字西の台1番地1 仙台営業所 〒983-0002 宮城県仙台市宮城野区蒲生2丁目29番地3

## 役員(平成17年9月30日現在)

代表取締役社長	鶴見 栄
代表取締役専務	鶴見 哲
常務取締役	稲垣 富定
常務取締役	藤井 雅昭
取締役	近藤 和敏
取締役	白井 義春
取締役	榊原 勝夫
取締役	山内 浩一
常勤監査役	住友 暉男
監査役	北折 義孝
監査役	鶴見 恒夫

(注) 監査役住友暉男、鶴見恒夫は、株式会社の監査等に関する商法の特例に関する法律第18条第1項に定める社外監査役であります。



本社社屋外観

## 株主メモ

営業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
配当金のお支払い	利益配当金は毎年3月31日の株主名簿(実質株主名簿含む)に記載または記録された株主、または登録質権者に、中間配当金を支払う場合は9月30日の株主名簿(実質株主名簿含む)に記載または記録された株主、または登録質権者にお支払いします。
公告掲載新聞	日本経済新聞
貸借対照表及び損益計算書掲載のホームページアドレス	<a href="http://www.try110.com/Kesan.htm">http://www.try110.com/Kesan.htm</a>
名義書換代理人	東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社
同事務取扱場所	名古屋市中区栄三丁目15番33号 中央三井信託銀行株式会社 名古屋支店 TEL(052)262-1520(証券代行部)
同取次所	中央三井信託銀行株式会社 本店及び全国各支店 日本証券代行株式会社 本店及び全国各支店
1単元株式数	100株

(お知らせ)

住所変更、単元未満株式買取請求、名義書換請求及び配当金振込指定に必要な各用紙のご請求は、名義書換代理人のフリーダイヤル0120-87-2031で24時間受付しております。

# 製品紹介 (主力製品)

## F形防災瓦



▲写真 タイプⅠ

イチ イチ マル  
**スーパースライ110**

**タイプⅠ**  
適度なボリューム感が特徴

**タイプⅡ**  
シンプルな美しさが特徴

**タイプⅢ**  
瓦の山と谷が縦につながるフォルムが特徴



写真 タイプⅢ  
カラー:ギンリン



ハイパーアーム  
アンダーロック部

◀スーパーロック工法により優れた耐風・耐震効果を発揮します。  
<タイプⅠ、Ⅱ、Ⅲ>

ポイントリターンにより、暴風雨に対して威力を発揮します。  
<タイプⅢのみ>



## M形防災瓦



▲写真 タイプⅠ

イチ イチ マル  
**スーパースライ110 サンレイ**

個性的で華やかな印象のサンレイ。暖かな風合いが洋風住宅を明るく楽しく演出します。



カラー:クラシカルレッド、クラシカリエロー



ハイパーアーム  
アンダーロック部

◀スーパーロック工法により優れた耐風・耐震効果を発揮します。

従来の平板瓦に比べ約20%軽くなりました。

**20%**  
軽量



従来の平板瓦 (三州の平均) ▲ サンレイ+車1台 (約1トン)

## J形防災瓦



▲写真 防災瓦エース

**J形防災瓦 エース**

日本伝統の形に耐風・耐震の強さを加えました。

**J形防災瓦 Super Ace**

耐風・耐震・防水に関する多くの安心機能を盛り込みました。



写真 スーパーエース  
カラー:ギンリン



◀かみ合わせ構造により、優れた耐風・耐震効果を発揮します。

谷部に設けたエースバリアにより、雨水の流れをスムーズにします。  
<スーパーエースのみ>



## ECO瓦

従来



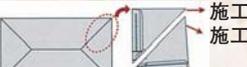
廃材  
施工

**スーパースライ110 タイプⅠ仕様**

SUMI SAN  
**隅棧瓦**



通常工法と比較して、**隅棧瓦** 最大63.6%廃材削減



施工  
施工

家1棟分(屋根面積120㎡程度の寄棟屋根)の廃材削減量(当社比)

従来

360kg



↓

隅棧瓦

最大 131kg



環境負荷 軽減

## トピックス

### 1. 本社工場第2ラインの生産設備の改修



屋根材市場のニーズ多様化に柔軟に対応するために、和形役瓦（のし瓦）専焼の本社工場第2ラインの生産設備の改修を開始し、平成17年11月に、和洋兼用役瓦生産設備として完工いたしました。最新のアーム型ロボット5基を搭載する工場は業界初で、洋形役瓦の生産効率を高め、更なる品揃えの充実化に努めてまいります。

### 2. 「サンレイ・軽量編」TV・CM放映



「サンレイ軽量編」

「サンレイ・軽量編」TV・CMを、平成17年4月から9月にかけて地域限定で放映いたしました。これまでの「スーパースライ110」の防災機能を紹介するTV・CMは「台風編」「地震編」でしたが、今回は、更に「軽量編」のTV・CMを加えて、当社の瓦の安全性をPRしております。

### 3. 2005景德鎮国際陶磁博覧会出展



◀ 博覧会会場



当社ブース▶

平成17年10月12日から18日にかけて中国にて2005景德鎮国際陶磁博覧会に出展いたしました。瀬戸市と友好関係にある景德鎮市の使節団が、愛知万博を訪れた際、当社阿久比工場を見学され、同博覧会への出展要請を受ける運びとなりました。

今後の国内市場において予測される新設住宅着工戸数年間100万戸時代に備え、海外市場にも目を向けるとともに、まず中国の瓦需要を見極める目的で、今回試験的に出展いたしました。

## トピックス

### 4. 瓦屋根の万博休憩施設見納めに



「瓦屋根の下で涼をとる来場者の方々」

平成17年9月25日、EXPO2005 AICHI JAPAN「愛・地球博」がフィナーレを迎えました。

地元で開催された万博の瓦屋根の休憩施設に、当社の主力製品であります「スーパートライ 110 サンレイ」が採用され、多くの来場者の憩いの場として利用していただけたことを光栄に思っております。

今後も、機会あるごとに、「環境に優しい粘土瓦」がその優位性を発揮して、多くの施設に採り上げていただけるよう、一層、品質向上とPR活動に努めてまいります。

### 5. 1単元の株式数の変更実施(500株→100株)

当社は、屋根材市場における粘土瓦の分野で「業界No.1企業」という位置付けを多くの投資家の方々に広めていく一環として、株式の流通促進と個人投資家層の拡大を図るために、平成13年8月1日をもって1単元の株式数を1,000株から500株に引下げ、再度、平成17年11月1日をもって、**1単元の株式数を500株から100株に引下げて**おります。

### 6. 名証IRエキスポ2005に出展



◀会場内全景

「名証IRエキスポ」(平成17年7月開催、名古屋証券取引所主催)への参加も今回で8回目となりました。

個人投資家の投資意欲が高まっている状況下、今回は出展社数も109社と大幅に増加し、一般投資家の来場者も約3,800人で過去最高を記録しました。当社ブースにも非常に多くの方がご来場され、営業の状況、スーパートライシリーズを中心とした当社の優位性等熱心にご質問をいただき、有意義な内容となりました。

また、今年はクールビズ元年ということもあり、当社ブース担当者全員がポロシャツの軽装で統一し、来訪者の方が立ち寄りやすい雰囲気づくりを試みました。

来年も7月開催の「名証IRエキスポ2006」に参加しますので、是非ご来場の程よろしくお願いたします。

▶一般投資家への説明風景



# アンケート

## アンケートご協力をお願い

当社では皆様とのコミュニケーションをより充実させていただきたいと考えております。つきましては、以下のアンケートにご回答いただきますよう、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

### 1 当社に対するイメージをお教えてください。

- ① 知名度がある    ② 経営戦略が興味深い    ③ 業績が安定している    ④ 財務内容が安定している  
⑤ 将来性がある    ⑥ 研究開発力がある    ⑦ 強い製品がある    ⑧ その他

### 2 中間事業報告書で興味を持った内容はありましたか。

- ① 経営に関するQ&A    ② 鶴弥と「防災」    ③ 経営成績    ④ 財務諸表    ⑤ 財務データ  
⑥ 株式の状況    ⑦ 会社の概要    ⑧ 製品紹介    ⑨ トピックス    ⑩ その他

### 3 事業報告書に対するご意見、ご要望がありましたらお聞かせください。

### 4 当社に求めるIR活動（企業が株主や投資家に対し、投資判断に必要な情報を提供していく活動）についてご要望がありましたらお聞かせください。

---

## アンケート回答用紙

1

⑧その他の場合

2

⑩その他の場合

3

4

ご協力ありがとうございました。

**Tsuruya** 株式会社 鶴弥

本社 / 〒475-8528 愛知県半田市州の崎町2番地12  
TEL (0569) 29-7311 FAX (0569) 28-5566

ホームページアドレス <http://www.try110.com>



**QMS . EMS**  
ISO 9001:2000, ISO 14001:2004  
JSAQ325, JSAE168  
粘土瓦の設計及び製造  
※ISO 14001は仙台(営)を除く

郵便はがき

料金受取人払

半田局承認

127

4758790

937

差出有効期限  
平成18年2月  
28日まで  
(切手をはらずに)  
(お出しください)

半田市州の崎町2番地12

株式会社 鶴弥 総務課行



お名前	(〒 - )	(男性・女性)
ご住所		
お電話	- -	
ご職業		